

わが国に求められる電力市場制度のあり様

第4回 ESIシンポジウム
2019年7月18日

大橋 弘(東京大学 公共政策大学院)

電力システム改革の振り返り

従来の電力システム

- 地域独占
- 総括原価
- 垂直一貫



システム改革の目的

- 安定供給の確保
- 電気料金の最大限の抑制
- 需要家の選択肢や事業者の事業機会の確保

システム改革の3本柱

- A) 電力広域的運営推進機関の設立 (2015)
- B) 小売の全面自由化 (2016)
- C) 法的分離と送配電部門の中立化 (2020)

システム改革の成果と課題

改革の成果

- 全国メリットオーダー
- 市場取引を通じた競争の拡大
- 分散型電源の拡大（FIT浸透）

改革の課題

- 安定供給に対する課題
（インバランス制度、託送制度等）
- 環境適合性への課題
- 原子力に対する課題

総括

競争の活性化に意識が強く向けられた結果、3E+Sのバランスを改めて考える必要が生じたといえる。

今後の視点

- A) 自由化のメリットを最大限生かすための制度設計
- B) 「社会最適」を目指す公益的視点
- C) デジタル化と新たな収益モデル

各論(例)

電源政策

過少投資問題

いくつかある原因を特定し、解決策を探る必要。例えば：

- a. 再エネ政策とのバランス
 - － 優先給電等に起因する旧来電源の稼働率低下
- b. 自由化の影響
 - － 事業見通しの低下
 - － 市場・相対調達への優遇
- c. 脱炭素化エネルギーの位置づけ
 - － 審査の予見可能性の改善
 - － システム間のコスト検証
- d. 垂直統合に起因する問題 等

ネットワーク政策

広域化・強靱化のニーズと現設備の老朽化

電源政策と統合的なNW政策が求められる。

- a. 社会的な観点からの費用対効果
 - － 他方で、社会インフラ(道路など)と同様の問題をはらむ
- b. 合理的な費用負担のあり方(負担の原則と地域の不均等)
- c. 各事業者に求められる役割と責任を明確化し、ルール違反に対して厳格な対処できる仕組み
- d. 単純な市場機能に限られない、合理的なallocationメカニズム

各論(例)

デジタル化

インフラ管理・計量・バンドリング・プラットフォーム・・・

- サイバーセキュリティが前提
- 電力事業が上流から下流に至るまで、電力供給に閉じられなくなる世界が訪れるか。
- 電力(小売)事業がゲートウェイを握ることができるかどうかは、今後の展開次第か。
- 電化の方向性

ユニバ

- 安定供給の考え方を供給者目線による全国一律ではなく、地域の需要家に応じて異なる考え方を取ることも可能か。
- 電力供給をインフラと捉えるならば、都市計画等のまちづくりと一体になった供給のあり方は、インフラ供給コストを下げるうえでも一案。

御清聴ありがとうございました